

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立すながわ高等支援学校・大阪府立泉南支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	1 アンケートにおける肯定的割合の向上 2 「主体的・対話的で深い学び」を実践する教員の育成と増加 3 アクティブ・ラーニンググループの使用率向上 4 併設校同士の交流授業、共生推進教室設置校との遠隔合同授業を実施し、交流・連携を強化 5 地域連携と外部への情報の発信
計画名	『Let's Be Active!!』 ～学校を超えてつながる夢のプロジェクト～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>【大阪府立すながわ高等支援学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高等支援学校教員としての専門性の確立 (2) 短焦点プロジェクターや ICT 機器の積極的な活用による授業力の向上 3 地域との連携・協同による、知的障がいのある生徒の就労支援の拠点校としての力の発揮 (2) 就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮 (4) 学校、福祉、企業等とのさらなるつながりの連携強化 	<p>【大阪府立泉南支援学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 すべての教職員が児童・生徒一人ひとりの実態把握、学習目標、支援の手立て、評価することができ、学級や学年で共有でき、校内で蓄積できた指導事例を特別支援教育（知的障がい教育）に対する自らの「専門性」とし泉南地域の支援教育力の更なる向上に活用する。（専門性の高い学校づくり） (1) <ICT 教育の充実と機器の活用> <ol style="list-style-type: none"> ①ICT に関する教職員の知識と授業力を高める。 ②アクティブ・ラーニング教室の活用事例を紹介し、有効な活用を促す。 ③各学部やすながわ高等支援学校と連携する授業の取組みを増やす。
事業目標	<p>新学習指導要領に謳われている、主体的・対話的で深い学びを実践し、児童生徒の主体的に学習に取り組む態度と思考力・判断力・表現力を養うため、すながわ高等支援学校と泉南支援学校の共用教室である音楽室をアクティブ・ラーニンググループとして整備し、以下の取組みを行う。</p> <p>「合同」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画をすながわ高等支援学校と泉南支援学校との合同提案とし、アクティブ・ラーニンググループを両校が使用可能なスペースとする。この教室を拠点として、音楽科のみならず、両校の様々な教科でアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を実践し、共有することで、支援教育における実践例を積み重ね、教員の指導力・授業力の向上をめざす。 ・ すながわ高等支援学校と泉南支援学校との交流授業、すながわ高等支援学校本校と共生推進教室設置校（久米田高等学校、信太高等学校）との遠隔合同授業を通して、ともに学び、ともに育つ教育を実践する。 	

	<p>「活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すながわ高等支援学校においては、アクティブ・ラーニングルームでグループワーク、プレゼンテーションなど生徒が自ら発信する授業を多く実施し、表現力を高め、社会的自立につなげる。 ・ 泉南支援学校においては、小学部・中学部・高等部それぞれがアクティブ・ラーニングルームで授業を行い、様々な障がいの程度、幅広い年齢の児童生徒が活用できる場とする。 ・ 現在音楽室の使用率は両校で 30%程度である。整備後、上記の取組みを通して両校で使用率 100%増をめざす。 <p>「発信」</p> <p>共に地域のセンター校として、両校で積み重ねたアクティブ・ラーニングの実践をホームページ、研究授業を通じ、外部に積極的に発信していく。</p>	
<p>整備した 設備・物品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタックテーブル ・ スタッキングチェア ・ ミーティングテーブル ・ HDMI 分配器 ・ 遮光カーテン ・ プロジェクター台 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロボット掃除機 ・ 床面タイルカーペット張替修理 ・ インタラクティブ機能付き短焦点プロジェクター (設置調整費・付属品含む) ・ 可動式プロジェクター ・ 壁面改修工事 (ホワイトボード設置・電気配線工事)
<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>主催者： 将来構想会議（首席…取りまとめを担当） すながわ泉南合同プロジェクトチーム…教室活用に関する提案・共有・実践を担当 ICT 委員会…ICT 機器使用のサポートを担当</p> <p>実施者： 全教員</p>	
<p>本年度の 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践報告および教員研修は適宜実施した。本年度はすながわ高等支援学校の教員が泉南支援学校の教員研修の講師を務めるなど交流が深まっている。 ・ 本年度については、eラーニングツールを導入することができたので、共生推進教室生については遠隔合同授業を実施せず、こちらの運用を行っている。 ・ 相互の授業見学会については、公開授業週間を活用しているが、研究協議については行うことができなかった。 ・ 「生徒の理解度、学習参加度の確認とデータ分析」分析のため、授業アンケートを実施した。 ・ 交流授業については本年度 4 教科で実施することができた。 ・ ホームページでの実践事例は適宜発信した。 ・ アクティブ・ラーニング勉強会は適宜実施した。 ・ 実践報告、研究授業については適宜実施した。 ・ コロナ禍でもあるので、視察は断念。事例研究については適宜実施した。 ・ 音楽の授業のみならず、あらゆる授業でアクティブ・ラーニングルームの活用を行っている。 	
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童生徒へアクティブ・ラーニングルーム使用後のアンケート（４段階評価）を行い、肯定的評価を 80%以上にする。 2. ・ 「主体的・対話的で深い学び」を実践する教員の割合を 100%にする。 ・ 公開授業週間の参加者数を 50 名以上にする。 3. 音楽の授業を含む他の教科等のアクティブ・ラーニングルームの年間使用回数を R1 年度比 100%増にする。 4. ・ 併設校同士、相互の授業見学会および研究協議を 3 回以上実施する。 ・ 併設校同士の交流授業を 1 回以上実施する。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した共生推進教室設置校との遠隔合同授業を3回以上行う。 <p>5. <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器を活用したアクティブ・ラーニングの実践事例をホームページにて5例以上公開する。 ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した実践報告会と研究授業を6回以上行う。 ・ 関係機関を招聘しての研究授業および実践報告会への参加団体30団体以上にする。 </p>
<p style="text-align: center;">自己評価</p>	<p>1. 交流授業後に行ったアンケートにおいて、肯定的な回答は91%であった。…… (◎)</p> <p>2. <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートを行った結果、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を実践している教員は80%にとどまった。…… (△) ・ 公開授業週間の参加者数は12名にとどまった。…… (△) </p> <p>3. <ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブ・ラーニンググループの使用回数、対R1年度比は107%増となった。(すながわ高等支援) …… (◎) ・ アクティブ・ラーニンググループの使用回数、対R1年度比は105%増となった。(泉南支援) …… (◎) ・ 従来使用してなかった学部学年も積極的に活用するようになった。(泉南支援) </p> <p>4. <ul style="list-style-type: none"> ・ 併設校同士、相互の授業見学会および研究協議を9回実施した。…… (◎) ・ 交流授業については、8回行うことができた。…… (◎) ・ 本年度は、eラーニングツールを導入したので、遠隔授業は実施せず、eラーニングツールを活用した実践を行った。…… (△) </p> <p>5. <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページにて、実践事例を5例公開している。…… (◎) ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した実践報告会と研究授業を12回行った。…… (◎) ・ 関係機関を招聘しての研究授業および実践報告会への参加団体は34団体にのぼった。…… (◎) </p>
<p style="text-align: center;">事業のまとめ</p>	<p>事業目標は「合同・活用・発信」であったが、「合同」については、合同提案校である、すながわ高等支援学校と泉南支援学校の交流が本事業により加速度的に進み、ともに学び、ともに育つ教育に結び付けることができた。「活用」については、比較的活用度の低かった音楽室をアクティブ・ラーニンググループとしてリノベーションすることによって、飛躍的に活用度の向上に資することができ、もって、アクティブ・ラーニングの視点にたった授業デザインを考える機会を創出することに貢献した。</p> <p>また、「発信」については、新型コロナウイルス感染症感染拡大もあり、関係機関を招聘することや、研究授業、公開授業などに参加していただくことが難しい3年間であったが、アクティブ・ラーニンググループの壁面ホワイトボードや短焦点プロジェクタを活用することにより、オンラインにて出前授業や合同授業を行ったり、オンラインの展示会などでの、事例発表を通じて、本校の取り組みを全国に発信することができた。</p> <p>アフターコロナの取組みが進む中で、本事業で整備したアクティブ・ラーニンググループを活用した実践を、地域の学校などに発信し支援教育のセンター校としての役割を果たしていきたい。</p>